

No. 47
5・6月号

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

●発行日／2005年5月1日

●発行所／(財)淡海文化振興財団



BIWA CHAN

県民

174人

巻頭アンケートVOL.11

今どきの若者を どう思いますか？

Q1.今どきの若者をどう思いますか？

県民174人巻頭アンケートVOL.11

- 自己中心的。まわりとの調和を好まない。忍耐力に欠ける。仕事とプライベートがはっきり区別できる。いい面と悪い面が…。ある意味うらやましい。(34歳)
- 年輩の方から見れば「今どきの若者は…」といろいろ非難されますが、そんな人ばかりでないというの分かってもらいたいです。小さな親切や、マナーなど、しっかりしている所もあると思います。また働かない若者といいますが、中には働けない人もいるのが現状です。私自身、病気のため自宅療養中の身であったりもします。大人の方にも理解を求めたいです。(27歳)
- 多くの若者は頑張っていると思いますが、ニートと呼ばれる若者が増えつつあります。まわりの者が元気つける事によりこのような若者を減らしたいし、若者相互でも努力して欲しい。
- 我が家にも長男(25歳)と長女(24歳)の2人の若者がいます。2人ともまだ結婚していません。テレビのニュースや新聞で見ますが、若い親が自分の幼い子どもを食事の食べ方が悪いとか、夜になっても泣きやまないとかで腹を立てて殴ったり、足で蹴ったりするなど、とても信じられないことが起きている。今の子は何を考えているのかわからない。長女は結婚して子どもを産み育てることが自分にできるか不安だし、恐いと話している。
- 次の社会を担うべく学校・実社会においてよくやっている者、勉強する者もいるが、あいさつや話し方、マナー等首をかしげなくなるような言動の者もいる。特に年の若い者ほど常識マナーがないと思う。先日新聞で40歳前後の母親がおかしい(ちょうど若いときバブルでアッシー君、メッシー君の時代)と書いてあり、納得した。その母親の子どもたちがぜんぜんしつけが出来ていないのだ。子どもの養育を自分がするという意識が希薄なのだ。(55歳)
- 情にうとい。自分だけが良かったらいいと思っている。もっと他人のことを考えて欲しい。(86歳)
- 親世代の迷いが敏感に伝わって、逃げの姿勢が見え隠りする。(39歳)
- 日本人としての誇りが無い人が多い。自分が良ければいいという人が多い。日本をもっと愛してほしい。
- 瀬田では障がい者の生活や活動にたくさんの学生が力になっている。障がい当事者が地域で自立した生活を送るためには若者の力が必要不可欠だ。
- うーん。むずかしい!最近の子は心を閉ざしているねー。環境が良すぎてあまやかしすぎも問題なのかも?
- 私は幼稚園教諭をしています。今の親は我が子だけ。叱ることを知らない。つくづく感じます!
- 社会が教育や家庭を批判しすぎるのが最大の原因。解決策のない批判は不安や怒りをもたらすだけだと思う。



第七回 今の若者、次代の若者がオトナになるとき

木村光一(事務局スタッフ)

古代ギリシャかローマ時代にも「今どきの若者は…」と嘆いていたという記録が残っているそうです。いつの時代も若者は、すでに若くない人たちの批判の対象であり続けてきたようで、もしそれが的を射ているなら、社会はどんどん退廃してきているはずなのです。

通勤に電車を利用していますが、座席で朝ご飯を食べる、お化粧を下地から始める、降りる人を押しつけて乗り込むなど、傍若無人と思える振る舞いも目にします。しかし、オトナたちの振る舞いを見ていたから、あるいはちゃんと教える人がいなかったから、それが許される行為として幅をきかせているようです。なぜなら、それらの言動は、オトナたちにも見られるからです。つまり、今のオトナの姿を、鏡の様に映していると思えます。

昔から、子どもはオトナが考える枠の中に入っていることが良い子であり、枠からはみ出たのは悪い子と言われることはありました。でも、その枠が今は狭くなっているのか、特に学校では、服装から行動まで細かな規範の中に押し込められてもいます。持ち物一つまで細かい規範を学校に求め、それを盾に我が子の言動を親の意に沿わせたいオトナもいます。それでは、幼い頃から自分が判断する価値観を育てにくいのですから、社会に出てからが大変でしょう。親や教師に褒められることに疲れたり、反発する子らは、上手に言葉に置き換えられない、あるいは受け止めてもらえないだけで、オトナの論理の不合理さは感じ取っているようです。

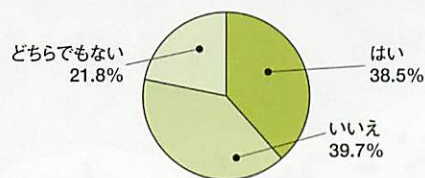
人が成長していくためには、大事なことはいくつもありますが、人と信頼関係を築く能力は重要です。論理の組み立て方も重要ですが、特に、相手から受ける、相手に語る言葉を考える過程は、自分の内面に向き合う機会ですし、相手から返ってくる言葉は、鏡に映した自分の評価といえます。彼らが社会へ出るまでに繰り返し自信を得る機会が与えられるよう、オトナはもっと腐心する必要があると考えます。



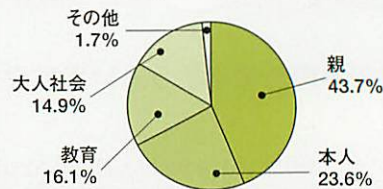
今どきの若者をどう思いますか？
県民174人巻頭アンケート結果

▶▶▶表紙よりつづき

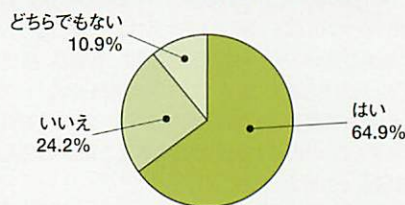
Q2.滋賀の若者は元気だと思いますか？



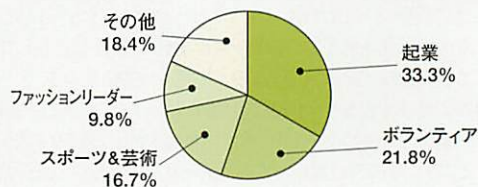
Q3.働かない若者(ニート)の原因は何だと思いますか？



Q4.滋賀県は若者に魅力があると思いますか？



Q5.若者が果たすべき社会的役割は？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力
県民：174名(回答数) 男性72名 女性81名 性別不明21名
10代…3名 20代…31名 30代…57名
40代…42名 50代以上…20名 年齢不明…21名

【7月号のアンケート】
次回7月号は琵琶湖の生態系をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

CONTENTS

巻頭コラム●アンケートから考える

今の若者、次代の若者が
オトナになるとき …… ①

特集・Oh!Me!Eyes… ②

KIRARI★INTERVIEW… ⑤

私たち「きらり」輝いています!NPO

- ひこね自転車生活をすすめる会(環境)
- NPO法人蒲生野考現倶楽部「しゃくなげ学校」(環境)
- NPO法人ふれあいセンター「そよ風」(福祉)

がんばれ!NPO 応援団… ⑦

【めととと★コラボ】

【おのみネット講座・寄付を考える Vol.1】

【ONLY ONE リレーエッセイ】

【NPOホームページ探検隊】

行って来て見て情報BOX
5月・6月…………… ⑨

いま、ボランティアについて考える

災害現場や地域での防犯活動での取り組みなど、「ボランティア」の活躍が日々マスコミで取り上げられています。また、ボランティア活動に参加する若い人も増えてきています。

ところで、皆さんは「ボランティア」をどうとらえていますか？ 今回の「おつみネット」では、よく耳にする「ボランティア」について、龍谷大学社会学部地域福祉学科教授の筒井のり子さんにお話を伺いました。



龍谷大学社会学部 地域福祉学科 教授
筒井のり子さん・プロフィール

1983年に関西学院大学大学院修士課程修了。大阪ボランティア協会に勤務し、市民活動団体の事務局を7年間担当。99年4月より龍谷大学勤務。地域福祉論、ボランティア・市民活動論担当。NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会代表理事。

●ボランティアに参加する若い人が増えてきていますが。

筒井 日本のボランティアの流れのなかで、戦後すぐ、一九五〇年代から七〇年代中頃までは「ボランティア」というと、学生や若い勤労者を中心とする「若者」のイメージでした。七〇年代後半から八〇年代にかけて、高齢化社会への危機論がかなり意図的にうたわれました。ち

ようど同じ時期に「自分が年をとっても住み慣れた町で暮らし続けたい、障害があっても街中で暮らしたい」という地域福祉の考え方が出て

きました。でも現実には、そのための在宅保健福祉サービスはきわめて貧弱。そこで、なければ自分たちで作らしよう、という

動きが、中高年の女性中心に起こってきました。九〇年代以降、生涯学習の中にボランティアが位置づけられ、定年後の人の参加も増えました。同じ時期、若者向けの雑誌などで「ボランティアはカッコいい」と

「ボランティア」というと「福祉」のイメージ?!

いった特集が立て続けに掲載され、八〇年代には遠ざかっていた若者が再びボランティアに目を向けるという動きが出てきたように思います。

このように、九〇年代に入った頃から、

それこそ、こどもからお年寄りまであらゆる層がボランティアに参加するという感じになってきています。阪神淡路大震災の時に「若者がすごく集まってびっくりした」とマスコミに書かれましたが、ボランティアセンターなどでかわりを持っていて、そんなに驚くことでもありませんでした。

●龍谷大学にも「ボランティア・NPO活動センター」があり、学生が集っていますが、彼らはボランティアをどのようにイメージして集まってくるのですか。

筒井 余談ですが、センターに名前を付けるときに一悶着あったんです。「ボランティア

センター」だと一般的にはどうしても「福祉」というイメージが強くなるようだし、「NGOセンター」だと「開発援助・国際協力」というイメージになりま

す。そこで「ボランティア・NPO活動センター」と名付けられたのですが、幅広い学生が集まる良い結果を生み出しています。

学校で行われている、「ボランティア体験」は「体験活動」でいい！

校で行われている、「ボランティア体験」というのが、教育プログラムとして行

われているのか、子どもたちの「ボランティア活動支援」なのかが、



●東京都教育委員会が高校で奉仕活動を義務化することを決めました。

筒井 ここでは「ボランティア」という言葉は使っていません。卒業必修単位で義務化しているので「奉仕活動」と呼んでいます。つまりボランティアと奉仕活動の違いを、自発性を求めるかどうかだけで分けているわけです。「ボランティア」にはもちろん、

自発性の部分も大事ですが、根底には「自治」つまり「自らの社

会、自らの地域社会を市民が主人公でつくっていく」という発想が土台にあります。奉仕活動にはそれがない。活動を通して社会の矛盾に気づいたり、憤ったりして自分との関係性を求めるものがボランティア活動。奉仕活動は「社会に良いことをしましたね」で終わってしまう。そこが根本的で、単に自発的・強制的な分け方以上に大きな問題だと思っています。

「市民自治」のビジョンがない活動は「ボランティア」ではなく「奉仕活動」！

センターに来る学生に聞いてみると、やはり「ボランティア」というと、施設へ行ったり、車いすを押したりとか、狭い「福祉」のイメージなんですね。実際にボランティアやNPO活動の分野としては「福祉」領域が多いのですが、しかし、彼らのイメージはきわめて限定された「福祉」イメージで驚きます。でも、センターに来て、いろいろ活動したり、活動している人や団体の話を聞いたりすると、自分たちが持っていたボランティアのイメージがいかに偏ったものがわかったと言います。

●これまでの学校生活の中で「ボランティア」について学ぶ機会が多かったと思いますが、

筒井 今の学生は小中高校時代に福祉の授業やボランティア体験などを行っているはずなのに、それでも「ボランティア」に対するイメージが悪いんですね。ひとつは、学

校で教育プログラムならば、確かに関心のない子も含めて、むしろ半強制的にでもさせる事によって新たな気づきがあるかもしれない。クラスの全員で施設を訪問することを否定はしませんが、それを「ボランティア」と称している。ボランティアってそうではないですね。

ボランティアの定義は「世直し」つまり社会づくりである！

「社会体験活動」に「ボランティア体験活動」という言葉を使うからややこしくなる。単に「体験活動」でいいわけです。ボランティアという言葉があまりにも使われすぎていて、それによって子どもたちのボランティアに対するイメージがゆがんできているようにも思います。

●ボランティアの根底にある「市民自治」という発想はあまり語られませんが、

簡井 ボランティアをするしない、するにしても何をする、どこまでするという事を含めて、すべて自分で決めないといけない。

「有償ボランティア」

という言葉は本来あり得ない!

自ら選び取っていかないといけないわけですね。活動する中で、社会の課題に対して自分自身で何ができるのかを考え、行動する。このことは自治の原点だと思っています。六、七〇年代ころはボランティアについて「やる気・世直し・手当」と表現されていた。「市民自治」はボランティアにとって自明の理だったんですね。でも「世直し」や「市民自治」というと重くて、少し引くでしょう? 運動論として、社会的な使命感に燃えた人しかできない活動と思われると拮がらないので、「だれでも気軽に、楽しく、得意なことからやりましょう」というのを八〇年代中頃くらいから割と意識的に言ってきた。言ってきた人の中には「市民自治」は前提としてあったのですが、だんだん、前提の部分が語られなくなり、気軽ということだけが語られてしまった。振り子の揺り戻しではないですが、もう一度、課題と自分との関係性や社会のビジョン

ンについて、活動を通して伝えていく必要がある時期かなあと感じています。

●NPOとボランティアの関係はどうお考えですか。

簡井 ボランティアの定義が「世直し」つまり社会づくりであるので、その組織体がNPO。有給スタッフを含む場合はボランティアグループとはいわれない程度の違いだと思います。

●有給スタッフのことがでしたが、「有償ボランティア」についてどう思われますか。

簡井 「有償ボランティア」の議論は日本独特の不思議なものですし、本来矛盾した表現なので使用しない方がいいですね。外国では無償以外あり得ない。交通費や材料費といった実費弁償以外に、たとえ低額であっても決められたお金をもらえば、それは「労働」と見なされます。実費弁償(無償の範囲)と「この労働に對していくら」という労働対価をきっちり区別する必要があります。人や団体によって、交通費や材料費の実費弁償を含めて「有償」といつている場合もあります。そういう場合も「有償ボランティア」という言葉を使わずに「実費弁

償」とはつきり言う。いま、整理していく段階にあると思います。

●ボランティアに関心を持ち、何か始めたいという人は多いと思いますが。

簡井 ボランティア活動の根本は自己責任。つまり、やる、やらないもそうだし「ここまで」ということがないので、どこまでやってもいいし、やらなくてもいい。ボランティアリーな人は活動をやり始めてさらに気づく。そしてどんだん、めりこみ、しんどくなり、そして突然来なくなった。自発的な活動なのに、結果的に自分の首を絞めてしまう。「やりたい」といったことによって自分がしんどくなる。金子郁容さんは「自発性パラドックス」(注)と表現していますが、つらいけれども「これ以上できません」といえることも責任なので、

活動後、議論や感想を言い合う場をきちんと設けることが大事!

でも、とにかく何かを始めてみないと何も始まりません。そして活動後、議論や感想を言い合う場をきちんと設けることで、人は成長していくものだと思います。

「これ以上できません」と言えるかどうかもボランティアには必要!

頃くらいから割と意識的に言ってきた。言ってきた人の中には「市民自治」は前提としてあったのですが、だんだん、前提の部分が語られなくなり、気軽ということだけが語られてしまった。振り子の揺り戻しではないですが、もう一度、課題と自分との関係性や社会のビジョ

注)「自発性パラドックス」…自発的に問題に取り組む人が自分を追い込み、かえってしんどさを抱えやすくなる事態のこと。金子郁容著『ボランティア—もうひとつの情報社会』(岩波新書)より。

きらり NPO

輝いています！



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、「淡海」というフィールドで、静かだけど、どこか「きらり！」と輝いているボランティア活動や市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

自転車を通して環境にやさしいライフスタイルを発信

彦根の旧市街にある花しょうぶ通り商店街の中ほどに小さな自転車店があります。そこが、「ひこね自転車生活をすすめる会」副代表を務める竹内さんのお店。竹内さんが会に関わるきっかけは、四年前に彦根市の「エコ2自転車とまちづくり委員会」に委員として参加したことでした。委員会が市へ提案書を提出した後、有志とともに市民の立場から自



●カンボジア製の自転車タクシー

転車を通して、環境にやさしいまちづくりを提案し、実践していこうと「ひこね自転車生活をすすめる会」を立ち上げまし



●ひこねサイクリングマップ

車を中心に活動。このほか、楽しみながら自転車に親しんでもらおうと、自転車によるエコツアーや琵琶湖一周などの活動を行っています。

「今は生活は便利になりましたが、そのことで環境に様々な負荷をかけています。自転車に乗ることで、自分は自然と本当は一体なのだ、と気づくこともたくさんあります」と竹内さん。会に集うメンバーの思いは様々ですが、「自転車」と「環境」でつながってい

た。これまで、市内の駐輪場調査、自転車に乗って「ヒヤリ」と危険を感じた場所を示した「ヒヤリマップ」や市委託事業の「ひこねサイクリングマップ」の作成など、提案書の内容の実践と啓発

ます。会で今取り組んでいるのは、「シガリンタク！プロジェクト」。アジアの国や最近の欧州で使われている自転車タクシーを彦根でも走らせることができないか、検討を始めています。「法律問題などいろいろ解決していくことはありますが、既に走っている街もあり、わりと楽観しています」。

彦根は坂が少なく、細い道も多いので、自転車が似合う街。でも、残念ながら自動車があふれています。「道に関する情報がきつちりと伝われば、自動車に乗っている人にも自転車での生活に戻ってきてもらえると思います」。会の活動を通して環境の大切さと自転車の楽しさに気づいてもらいたい、エコスタイルの発信が続きます。



●副代表の竹内洋行さん

ひこね自転車生活をすすめる会

代表●近藤隆二郎
設立●2002年9月
会員●25名
連絡先●彦根市八坂町2500
滋賀県立大学環境科学部近藤研究室内
TEL/FAX：0749-28-8570
e-mail：rcon@ses.usp.ac.jp
URL：http://homepage3.nifty.com/rcon999/

「たんけん・はっけん・ほつとけん」で
里山の知恵に学ぶ

蒲生野考現倶楽部は、身近な水環境を調べ、暮らしのあり方とより良い環境文化を創ることを目的として、一九九〇年に設立された団体です。廃校になった鎌掛小学校を日野町から全面借り受けて、二〇〇三年から「しゃくなげ学校」を運営しています。ここでは、「里山の知恵が地域を創る」という考えを大切に、さまざまな活動に取り組んでいます。

しゃくなげ学校では、里山研究と里山体験、環境学習等が行われて、滋賀や蒲生野の自然や文化について学ぶことができます。また、より豊かな里山体験ができるようにと、昔の教室を利用して里山環境館を併設しています。



●しゃくなげ学校（手作り看板できました！）

里山環境館は、日野川流域の魚類を中心とした生き物を四〇個の水槽で飼育・展示している水族室、里山の自然や琵琶湖・河川・池の水の音を科学的に学習できる自然室、里山の民家と商家の暮らしを展示し、明治期の暮らしが体験できる民俗室とで構成されています。体験活動と里山環境を同時に学べるようになっていきます。

昨年は草津や大津からも子どもたちが参加しました。田植えや稲刈り、かいどり大作戦（魚つかみ）やキノコ狩り、蛍コンサートや鎌掛の地蔵盆の日の行灯づくりなど、地元の豊かな自然を生かした活動をしていて、子どもたちも楽しく参加しています。しゃくなげ渓谷でのバードウォッチングも人気があります。また、レトロな木造校舎二階の教室に蚊帳を吊り、のんびりと里山を満喫しながら宿泊を体験することができます。



●魚つかみを楽しむ、事務局長の齒黒さん

NPO法人蒲生野考現倶楽部
「しゃくなげ学校」
代表●森田英二
設立●1990年（法人：2003年）
会員●250名
連絡先●しゃくなげ学校
蒲生郡日野町鎌掛2362
TEL：0748-53-9087
FAX：0748-52-1925

お年寄りから子どもまで
交流できる場をつくりたい

地域のお年寄り子どもが気兼ねなく集まり、交流できるような場がほしい。そんな思いからふれあいセンター「そよ風」は二〇〇四年三月にあったかほーむ「よつといでそよ風へ」を開設しました。個人宅をバリアフリーに改修し、大きく設けたフリースペースには住民から譲り受けたソファやテーブルを配置。クマの模様が入った壁紙を張り、子どもたちも親しめる空間になっています。毎週水曜、土曜に開いています。その日は近所の子どもたちや高齢者、隣接するグループホームの入居者が混じって、ゆっ



●デイサービスとホームヘルプサービスも行っている。

たりとしたひと時を一緒にすごしています。「この地域は、三十年前に開発された新興住宅街で、いまではすっかり高齢化が進みました」。



●地域交流サロンあったかほーむ「よつといでそよ風へ」

「よつといでそよ風へ」がある湖南市三雲地域について、理事長の平井和夫さんはこう語ります。転居してきた当時、周辺の良い集落では昔ながらのお祭りなんかがあって、人の交流があるけれど、この地

域の住民は全国から集まった「入りびと」ばかりでつながりも何もない。そこで平井さんが入居して早々に自治会づくりを呼びかけたのだそうです。そのときみんな考えて出した地域のお祭りは、現在まで続く地域行事になっています。

介護事業NPOを立ち上げたのも、義父母を看取った自分自身の体験からきているという平井さん。誰もが住み慣れた地域でケアを受けられる、そしてそこに遊びに来る子どもたちは、体の不自由なお年寄りを手助けして、いたわりの心を知ってほしい。そんな住民同志が世代を超えて支えあう地域福祉をつくることを目指して活動しています。

●理事長の平井和夫さん



NPO法人ふれあいセンター「そよ風」
代表●平井和夫
設立●2001年5月
会員●約70名
連絡先●湖南市吉永170-4
TEL：0748-71-4330
FAX：0748-71-4430

た。集まった寄付金の配分先は政府が認可し、政府のサービスを代行する団体へ配分され、この行政主導のシステムは民間施設が独自に寄付を集めなくなる傾向に拍車をかけることとなります。

また、社会福祉法人・学校法人・医療法人など、日本の非営利公益セクターも、国が措置費を負担する、監督権を持つ、健保を管掌するなど、国の管理下におかれました。

共同募金会と日本赤十字社は共に年額200億円を越す募金額の双璧をなす団体ですが、どちらも政府の信用を背景にしており、寄付はこれらの寄付仲介機関に集められて助成という形を取ることから、その使途や成果については関心をもちませんでした。行政が深く関与する寄付仲介団体の存在は日本の寄付市場の大きな特徴といえます。

■日米の寄付金比較

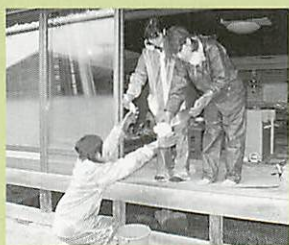
寄付大国といわれる米国と日本を比較すると、1年間に寄付をした世帯の割合は共に70%を超え、それ程の違いはありません。違いはその金額で、総務省統計局の調査では、2000年の日本の1世帯あたり平均寄付額は3,199円ですが、米国では174,636円と実に日本の55倍近い金額です。キリスト教文化や税制の違いなどの要因はありますが、米国の寄付総額は25兆円を超え(2001年度)、その内75.8%が個人からの寄付によるものです。

(フリーライター 大山純子)

※今回は「日本人の寄付意識」について考えます。

(参考資料「日米の寄付市場とNPO」 発行 シーズ=市民活動を支える制度をつくる会)

学生スタッフは自らボランティア活動をするだけでなく、一般学生と地域の団体・NPO・NGO等とをつなぐ役割を担うほか、ボランティアリーダー養成講座等の企画を担当。現在、瀬田学舎では約30名(深草学舎と合わせると約65名)の学生スタッフが活躍中で、その数と質の高さでは全国1、2位を争う程。2005年度の抱負は、「イベントに終わらず継続的な活動にチャレンジしたい」「環境・福祉・まちづくりなど各分野の情報をわかりやすく提供したい」など学生から多くの意見があがっています。「大学主導で学生を社会貢献に駆り出すのではなく、学生が自ら進んでアクションを起こすよう、学生自身がサポートできる運営を」(石川両一センター長)。学生スタッフと大学側のいい関係で多くの学生の「やる気」を引き出し、「何かやりたい!」という思いを実現するシステムを構築しています。今後、大学の特色を打ち出した継続的な地域活動に取り組めるよう、外部のつなぎ手との協働が期待されるところです。



▲災害ボランティア (12月)

【問】龍谷ボランティア・NPO活動センター瀬田
TEL・FAX.077-544-7252

ONLY ONE

リレーエッセイ

「私が動けば町が変わる」

次回からは、おうみ未来塾卒業生によるリレーエッセイを開始します。

「サロン いこいのへや」

三宅 春代さん

(彦根市)



「私が動けば町が変わる」のテーマのもと、ちょうど8年前、市と公募で集った実行委員との共催で「女性のつどい」のイベントを行いました。「子育て」「家庭と仕事」「高齢社会」と年齢別の分科会に分かれて討議しましたが、共通の問題点として残ったのが、「気兼ねなく話し合う場が欲しい」との事でした。

私自身も、まわりのお年寄りがそのような場を求めていることを感じてましたので、たまたま空き家になっていた自宅を開放し、仲間と始めたのが、宅老「サロン いこいのへや」です。始めは来る人もなく、廃業の話も出たくらいですが、口コミやマスコミに取り上げられ、現在は平均15名ほど集まり、賑やかに楽しく過ごしています。

つどいのテーマであった「私が動けば町が変わる」通り、現在では続いて5カ所でき、目的が少しは達成できたか、と自画自賛しております。

NPOホームページ探検隊

NPOや市民団体がつくる
ユニークなホームページを紹介します。

遊林会

<http://www.bcap.co.jp/ikimono/yurin/>



遊林会は、東近江市にある愛知川河辺林「河辺いきものの森」で里山の保全を目的に活動している市民団体。ホームページでは、「河辺いきものの森」について詳しく紹介されているほか、メールで配信される「河辺林通信」のバックナンバーを読むことができます。また「森の歳時記」のコーナーでは、遊林会の活動やイベントの報告などが、写真入りで報告されています。

がんばれ!NPO 応援団

市民活動を元気にする情報コーナー



おみネット講座

寄付を 考える

Vol.1

「日本の寄付の背景」

あなたの所属するNPOは寄付を集めていますか？

NPOの財源はおおまかに分けると、収益事業と助成と寄付の3つしかありません（会費も広い意味での寄付にあたります）。しかし日本のNPO法人の4割は寄付を集めておらず、今後も予定しないという内閣府の調査結果があります。

なぜNPOは寄付を集めないのか。日本の寄付市場の特徴、そして寄付を集める工夫など、自己財源率を高めるために、寄付について考えてみましょう。

■日本の寄付の歴史

村の相互扶助など支えあいの仕組みが中心の江戸時代を経て、明治以降の民間福祉施設への寄付は、近代化によって財をなした財閥や企業、国からの補助金、そして皇室からがそれぞれ1/3

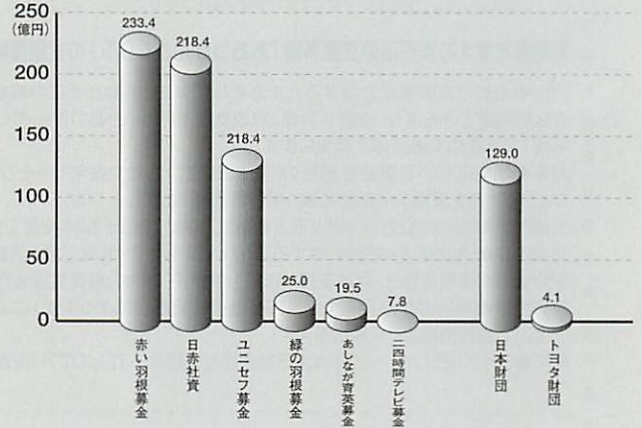
を占めていたといわれます。

第2次大戦後、財閥は解体、華族も廃止され、経済的疲弊から企業寄付も減少しました。また、憲法の発布による転換などから日本は福祉国家を理想として動き出しました。その結果、民間の福祉施設は国から措置費を受け取って国のサービスを代行する存在となり、福祉サービスは国が行うべきものという意識が国民に広がっていきました。

■日本の寄付市場と政府の関与

日本の共同募金の創設は1947年（昭和22年）ですが、仕組みとしては街頭募金と町内会や自治会をベースにした戸別訪問でし

【図】主な募金団体と助成団体の寄付額／募金額



（出典：（社福）大阪ボランティア協会発行「Volo」12月号 P21）

めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

学生や職員の「何かしたい!」という気持ちを
応援し、実現するためにサポートしたい。

..... 龍谷ボランティア・NPO活動センター瀬田



▲学生スタッフと専従スタッフ



▲全国ボランティアフェスティバル
びわこで意見交換(9月)



▲SOトーチラン滋賀IN大津(11月)



▲大津祭で鉦曳き(10月)

2001年に、学生や教職員のボランティア活動の支援を目的に設立し、週1回のボランティアコーディネートを開始しました。2003年には活動室と職員1名が配属され、たまり場づくりが功を奏し活動は本格化しました。昨年春、入学と同時に登録した濱門正樹さん(2回生)は大阪の自然保護協会でビオトープチームを立ち上げ奔走する傍ら、センターと学生をつなぐリーダー的存在。那須麻利子さん(2回生)らは介助犬ユーザーの学生と出会い、学生や市民の理解を深めようと「補助犬から考えるみんなのまちづ

くりシンポジウム」を企画から運営まですべて学生たちの手で行いました。昨年秋の全国ボランティアフェスティバルでは、学生スタッフが初めて分科会を担当し、大学ボランティアセンターの役割を考える他大学とのパネルディスカッションを実現しました。また、度重なる台風や新潟中越地震などの被害に「私たち学生にできることはないだろうか」と、一人の学生の呼びかけに多くの学生・職員が応える形で災害ボランティアに取り組みました。一方、地域の各種団体との連携もすすみ、SOトーチラン滋賀IN大津(知的発達障がい者の日本縦断聖火リレー)や大津祭にも学生らしい発想で参画しました。

7月・8月の掲示板 情報募集中!

日時・場所・問合せ先等を明記の上、6月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

ニッセイ財団平成17年度 高齢社会助成-共に生きる地域コミュニティづくり-

- ☆「高齢社会に関する実践的研究助成」
- 助成対象●(1)高齢者の自立・ケア・自己実現・社会参加を推進する地域社会システムづくりの実践的研究(2)高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す実践的研究(3)認知症高齢者の予防からケアまでを探求する実践的研究
- 応募締切●6月14日(火)
- ☆「高齢社会における先駆的事業助成」
- 助成対象●(1)高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的事業(2)認知症高齢者に関する予防ケアまでの総合的な先駆的事業
- 応募締切●5月31日(火)
- 【問】ニッセイ財団高齢社会部 住所:〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目1-7 日生今橋ビル4階 URL:<http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/>

高齢者を支える市民活動支援事業「おおつげんきくらぶ」の支援団体を募集

- 内容●地域で高齢者を支援するさまざまな団体が、活動と支援の輪を広げ自立して活動できるよう、助言や指導、財政支援を行う「おおつげんきくらぶ」。
- 平成17年度の支援団体を募集します。
- 対象●地域において高齢者福祉の向上に役立つ活動や在宅サービスの提供など、高齢者を支援する活動に取り組む市民団体、グループなど
- 支援期間●原則3年以内(期間内に収入を確保し、事業実施できる体制を確立すること)
- 支援内容●活動支援=活動に対するアドバイスを行う・情報支援=活動内容を紹介する情報紙を発行・財政支援=年間100万円以内の経費支援を行う
- 申込方法●所定の申込用紙(大津市社会福祉協議会にあります)に必要事項を書いて直接協議会へ(郵送不可)
- 締切●5月31日(火) 【問】大津市社会福祉協議会 TEL:077-525-9316

大津市まちづくりパワーアップ事業の募集

- (1)パワーアップ・活動支援事業
- 事業内容●市民団体等による意欲的で、新しく広域性のある、まちづくり活動(まちの賑わい創出、景観づくり、環境保全、地域福祉など、大津のまちづくりに資する活動)等を支援します。
- 対象者●まちづくり活動を行う、およそ10人以上の市民団体等
- 支援内容●まちづくり活動に必要な経費を補助します。
- 募集期間●4月11日(月)～5月18日(水)
- 【問】大津市政策調整部企画調整課 TEL:077-528-2701 FAX:077-523-0460 e-mail:otsu1001@mail.city.otsu.shiga.jp
- (2)パワーアップ・夢実現事業
- 事業内容●まちの活性化の起爆剤となる新しい企画提案を募集、審査し、優れた企画の実現を支援します。
- 対象者●大津のまちづくりに意欲のあるグループなら市内外を問わず、どなたでも結構です。
- 支援内容●提案者が大津市と協働で実施するものと、大津市の経費支援を受けて自ら実施するものがあります。
- 募集期間●4月11日(月)～5月18日(水)
- 【問】大津市都市計画部まちづくり政策課 TEL:077-528-2770 e-mail:otsu1303@mail.city.otsu.shiga.jp

「琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動助成」

- 助成対象事業●琵琶湖・淀川流域の水環境改善にとって先駆的であり、今後の住民活動を先導するものや、流域の住民活動の連携や交流を図る以下のような活動とします。
- (1)水質の保全・改善に関する活動
- (2)自然生態、親水、水源涵養等の機能を保全・改善する活動
- (3)水環境について知り、理解する活動
- 助成内容●1件あたりの助成金額は30万円程度とします。
- 助成期間●原則として1年(ただし平成17年度は平成18年3月末まで)としますが、活動内容によって最長3年まで延長することができます。
- 応募方法●本助成を希望する団体は応募様式に必要事項を記入のうえ、実施計画書(A4、数ページ程度)および予算内訳書を添付して次の宛先まで郵送して下さい。
- 宛先●〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-30 横井北浜ビル3階
- 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構企画開発部
- 応募締切●5月25日(水)(必着)
- URL:<http://www.byq.or.jp/kikou/subsidy.html>

第28回福祉車両の贈呈

- 「24時間テレビ」チャリティー委員会では、福祉車両の寄贈申し込みを受け付けています。寄贈車両は、平成17年度24時間テレビ28「愛は地球を救う」チャリティー募金により購入されるものです。24時間テレビ特別仕様の福祉車両は、幸せを運ぶ鳥「ハッピーバード」と呼ぶことになりました。「ハッピーバード」は喜びと幸せに向かって街中を駆け巡ります。
- 申込方法●福祉車両の寄贈申込書(団体用・個人用)に必要事項をご記入のうえ、下記へ郵送にてお送りください。
- 募集期間●4月上旬～5月31日(火)消印有効
- 郵送先●〒105-7444 東京都港区東新橋1-6-1日本テレビ内
- 「24時間テレビ」チャリティー委員会事務局
- 【問】「24時間テレビ」チャリティー委員会事務局 TEL:03-6215-3008 e-mail:<http://www.ntv.co.jp/24h/>

サラリーマン(ウーマン) ボランティア活動助成

- 対象者●社会福祉の推進に役立つボランティア活動を行っているか、または行おうとするサラリーマン(ウーマン)の個人もしくはそのグループ。ただし、過去5年以内に本助成を受けた人(グループ)は除きます。
- 対象となる活動●(1)高齢者福祉に関するボランティア活動
- (2)障害者福祉に関するボランティア活動
- (3)子ども(高校生まで)の健全な心を養うための交流ボランティア活動で、内容が先駆性、継続性、発展性があり、効果が予測できるもの。いずれも目的、計画等が明確な日本国内での無償の活動とします。
- 応募方法●所定の申込書に所定事項を記入のうえ、送付してください(Eメールでの提出は不可)。
- 募集期間●4月1日(金)～5月31日(火)(締切日厳守)
- 【問】財団法人大同生命厚生事業団事務局
- 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目2-1
- TEL:06-6447-7101 FAX:06-6447-7102
- URL:<http://www.daido-life-welfare.or.jp/>
- e-mail:info@daido-life-welfare.or.jp

第25回「緑の都市賞」

- (1)施設緑化部門 応募資格●市民等の緑化活動団体(都市部もしくは都市近郊の公開性のある施設を対象に、緑化や緑の保全に取り組み、その成果をあげているもの)企業・公共団体等の事業者(都市部もしくは都市近郊の公共施設(都市公園単体は除く)あるいは公開性のある施設を対象に、緑化事業(保全を含む)を行い、その成果をあげているもの)
- (2)地域緑化部門 応募資格●市民等の緑化活動団体(都市部もしくは都市近郊の地域や地区に広がった緑化や緑の保全に取り組み、その成果をあげているもの)企業・公共団体等の事業者(都市部もしくは都市近郊の面的な開発や河川・道路等の線的な広がりのある地域や地区を対象として緑化事業(保全を含む)を行い、その成果をあげているもの)
- (3)緑の都市づくり部門 応募資格●公共団体(都市全体の緑化に取組み、その成果をあげているもので、個性的な緑化を展開しているもの)
- 募集期間●4月1日(金)～6月30日(木)
- 【問】財団法人都市緑化基金「緑の都市賞」係
- 住所:〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6相互麹町第二ビル8F
- TEL:03-5275-2291 FAX:03-5275-2331
- e-mail:mail@urban-green.or.jp URL:<http://www.urban-green.or.jp/>

滋賀会館シネマホール 5月の上映予定

『山猫 イタリア語・完全復元版』 上映中～5月15日(日)	『天井桟敷の人々』 5月17日(火)～22日(日)
『五線譜のラブレター』 上映中～5月15日(日)	『ビヨンド the シー』 5月17日(火)～6月3日(金)
『約三十の瞳』 5月14日(土)～29日(日)	『ノスタルジア』 5月25日(水)～29日(日)
	『ネバーランド』 5月25日(水)～6月5日(日)

◆リクエスト受付中!

- 各回入替制
- 料金は作品によって異なります
- 毎週水曜日1,000円均一サービス
- 電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネットワークセンターまでお送りください。
- 毎週木・金曜日の初回&16:00以降の回1,200円均一サービス
- TEL:077-522-6191
- 滋賀会館シネマホール



行って来て見て 情報BOX 5・6月

ここに掲載できなかった情報はセンターホームページに掲載しています。http://www.biwa.ne.jp/ohmi-net

イベント

講演会「楽しみながら治癒力を高めよう」

▶ 5月14日(土) 13:30~15:00
内容●いつでもどこでも座ってでもできる簡単エクササイズ
講師●岸見明子氏
場所●アル・マーレ(大津市御殿浜)
参加費●無料※要事前申込
※当日10:00~12:00まで(特活)
滋賀県難病連絡協議会の定期総会開催
【問】NPO法人滋賀県難病連絡協議会
TEL:077-582-9246

長浜おやこ劇場第108回例会「マリオネットの小さな作品集」

▶ 5月14日(土) 14:00~
内容●人形劇回ココンによる子どもから大人まで楽しめる不思議で楽しいマリオネットの一人芝居
場所●養蚕の館(長浜市相撲町)
参加費●シングル1,200円
ペア2,000円
※会員募集中 4才以上だれでも入会できます
【問】長浜おやこ劇場
TEL・FAX:0749-64-1527
(平日10:00~13:00)

蜂谷清香 愛の「絵とこぼ」の世界 ミニ展示会

▶ 4月23日(土)~5月31日(火) 10:00~16:30
場所●白雲館(近江八幡市) 入場無料
※5月14日(土) 13:00~ 蜂谷清香ミニライブ
【問】近江八幡観光物産協会
TEL:0748-32-6181

勉強会・交流会

平成17年度「淡海の杜の会」総会及び記念講演会

▶ 5月21日(土) 13:00~16:30
内容●総会13:00~13:45
記念講演「神苑の生きもの達」14:00~15:00
講師:平安神宮禰宜 本多和夫さん
庭園散策(15:00~16:30)
(庭園散策は会員に限ります)
場所●平安神宮研修会館
参加費●500円
【問】中西 TEL:077-522-9568
e-mail:ynakanic@skyblue.ocn.ne.jp

ひとまち政策研究所フォーラム「滋賀の市民自治の未来を考える」

▶ 5月22日(日) 14:00~17:00
場所●滋賀県立男女共同参画センター-視聴覚室
基調講演●谷畑英吾さん(湖南市長)
参加費●1,000円
【問】NPO法人ひとまち政策研究所
TEL/FAX:0748-33-5576

子育て親育ちサロン事業「障害の発達に依りての関わり方」~介助スキルアップのためのワンポイントレッスン講座~

内容●障害児・者に対しての関わり方をワンポイントでわかりやすく説明します。障害児・者に対しての理解を深めることなどにも役立つ実践的な支援を講習します。
☆第1回/5月7日(土) 10:00~15:00
(第1部)講義/10:00~12:00
(第2部)交流会昼食後折り紙や簡単な工作/12:00~15:00
講師●石井裕紀子氏(第二びわこ学園 心理判定員)・森哲弘氏(第二びわこ学園 職員)
場所●滋賀県立障害者福祉センター一会議室(草津市笠山8-5-130)
参加費●無料/第2部交流会参加費1,000円(昼食付き)
☆第2回/6月4日(土) 10:00~15:00
(第1部)講義/10:00~12:00
(第2部)交流会野外体験/12:00~15:00
講師●石井裕紀子氏(第二びわこ学園 心理判定員)
場所●滋賀県立障害者福祉センター一会議室
参加費●無料/第2部交流会参加費1,000円(昼食付き)
※第1部のみ託児(障害児含む)をします。料金500円(要予約2日前まで)
【問】NPO法人子どもネットワークセンター天気村
TEL:077-564-7868
FAX:077-564-7895
e-mail:ynakanic@skyblue.ocn.ne.jp

第8回熱人談義「鎮守の森と市民のかかわり」

▶ 5月24日(火) 18:30~
話題提供者●森川稔さん(淡海の杜の会)
場所●大津百町館
参加費●500円
【問】NPO市民熱人
FAX:077-522-2997
URL:http://www.geocities.jp/nposhiminnet/top.html

指定管理者制度学習会「指定管理者制度に市民がどのようにかわるべきか」

▶ 6月16日(木) 19:00~
場所●草津市立まちづくりセンター309
参加費●1,000円
※詳細はお問い合わせください
【問】NPO市民熱人
FAX:077-522-2997
URL:http://www.geocities.jp/nposhiminnet/top.html

参加者募集

りっとう山荘活用事業団体募集

内容●閉館中のりっとう山荘(旧日赤滋賀りっとう山荘)を本年度試行として開館します。それにともないこの山荘を活用した事業を実施する団体を募集します。
開館期間●7月1日(金)~10月31日(月)
事業実施●開館期間中にりっとう山荘やその周辺を活用し、広く市民などに開かれた創意工夫にあふれる事業を行っていただきます。なお事業実施にあたっては、市の定める基準に基づき、一部補助を行います。
応募期間●4月18日(月)~5月12日(木)
応募方法●所定の申請書に必要事項を記入し、下記へ提出して下さい。申請書は栗東市市民活動推進課窓口で配布します。
審査方法●書類審査、プレゼンテーションを経て採択団体1団体を決定します。
【問】栗東市役所市民活動推進課
TEL:077-551-0290
URL:http://www.city.ritto.shiga.jp/

「しゃくなげ学校」17年度生募集

内容●都市部の人たちと地元の人たちの交流にご参加ください。
日程●5月14日(土)開講式・田植え・芋苗植え・生き物観察/6月11日(土)~12日(日)ホテルの勉強会・ホテルコンサート・バードウォッチング/7月31日(日)かいどり大作戦(魚つかみ)/8月21日(日)~24日(水)/夏休みみ宿泊体験/10月8日(土)稲刈り・キノコ観察/11月5日(土)収穫祭
参加費●全コース参加で25,000円(部分参加可能)
【問】NPO法人蒲生野考現倶楽部
TEL:0748-53-9087
URL:http://www.gamouno.com/

「スマトラ沖地震・大津波被災者へ今できることを」

ご提供いただける日用品などがありましたら、下記までご連絡ください。(使用困難なもの、期限のあるもの、古着、大型のものは、ご遠慮ください。) 連絡先●守山市金森町 広実(ひろざね) TEL/FAX:077-581-3421

助成金情報

平成17年度「水域環境をめぐる学習活動等の成果公表支援」事業

趣旨●地域特性をもつ水域環境に積極的に係るNGO・NPO、研究・学習グループ等の環境学習活動や保全活動を評価し、その果実を地域社会に還元・浸透させることが急務と考えます。そして、市民一般の意識啓発・高揚に大きく寄与することが期待される成果報告・公開を支援することにより、地域環境へよりよき理解を促進することを目的とします。
支援対象●トータルに水の係わる世界を様々な形で見つけ、調査・研究・学習活動を行うNGO・NPO・市民グループ
内容●地域によって様々な環境を持つ水域環境に係わる所見・提案等を効果的な方法で市民一般に報告・公開するもの
募集期間●平成17年5月9日~6月6日<必着>まで
申請書の申込方法●電話によりご連絡下さい。
【問】財団法人日本科学協会 「水域環境をめぐる学習活動等の成果公表支援」係
住所:〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2日本財団ビル5階
TEL:03-6229-5365 FAX:03-6229-5369
URL:http://www.jss.or.jp/

社団法人 生命保険協会「子育て家庭支援活動」

趣旨●小学校就学前の子どもの子育てをしている保護者等を対象にボランティアで支援活動を行っている民間非営利の団体等に対して資金助成を行い、子育てのしやすい地域社会の環境整備に寄与し、地域福祉の一層の推進を図る。
対象活動●小学校就学前の子どもの保護者(妊婦等含む)を対象にボランティアで行っている支援活動(子育てのノウハウの伝授や育児負担を軽減させる活動など)
申込受付期間●平成17年4月4日(月)~5月20日(金)
申込方法●所定の「助成申請書」に必要事項を記入のうえ、添付書類とともに、弊会広報部へ必ず郵送または宅配便にて送付。
【問】社団法人 生命保険協会「子育て家庭支援活動」事務局
住所:〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4-1 新国際ビル3階
TEL:03-3286-2643 FAX:03-3286-2730
URL:http://www.seiho.or.jp/

「琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業助成」

助成対象事業●(1)地域に密着した身近な水質浄化事業(2)水質浄化事業に必要な材料調達システム作り及び材料調達(3)水質浄化事業におけるリサイクルの推進事業(4)上記に関連する研究
応募方法●本助成を希望する団体または個人は、応募様式に必要事項を記入のうえ、実施計画書および予算内訳書を添付し、下記の宛先まで郵送してください。
宛先●〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-30 横井北浜ビル3階
財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部
応募締切●5月25日(水) (必着) URL:http://www.byq.or.jp/kikou/subsidy.html



おうみNPO活動基金に243,000円を寄付

このたび、しがぎんリース・キャピタル株式会社様より、NPO活動支援のための「おうみNPO活動基金」に243,000円の寄付をいただくことになり、去る3月23日に寄付金の贈呈式が行われました。

貴重な浄財をお寄せくださいました、しがぎん・リースキャピタル株式会社様に対しまして深く感謝申し上げます。



ワークコーナーに大判プリンタを設置しました

淡海ネットワークセンターのワークコーナーに大判プリンタを導入しましたので、ぜひご利用ください。

◇A1サイズでフルカラーポスターを印刷することができます。

◇横断幕・垂れ幕などを印刷することができます。

◇利用方法：印刷したいもののデータをフロッピーディスク、CDでお持ちください。

◇料金：幅59.4cmで

フルカラー印刷／

長さ10cmあたり40円

単色カラー印刷／

長さ10cmあたり30円

黒色印刷／

長さ10cmあたり20円



おうみ未来塾第7期開講式 & 記念講演のお知らせ

おうみ未来塾第7期生の開講式と、日高敏隆塾長による記念講演

◇日時：6月12日(日)午後 大津市内にて
※詳細はセンターホームページをご覧くださいか、お問い合わせください。

新刊書籍案内

『臨地まちづくり学』

織田直文／著 (サンライズ出版) 2,625円

本書では、まちを生体としてとらえ、臨床医学にない、現場で考え、現場で課題解決をする新しい学問を「臨地まちづくり」と命名している。日本の近現代史・戦後史の中でのまちづくりの展開などの部分は、まちづくり史という読み物としても楽しめ、また協働や住民参加論、テーマタウン方式のすすめや歴史的商店街の再評価など、現代的な課題に対する論究も興味深い。まちづくりに関わる人々には必読の書である。

「東近江地域での 福祉起業ガイドブック」

東近江NPOセンター／編 500円

地域密着・小規模・多機能ケアについて、東近江地域の事例を挙げながら、組織の立ち上げ、介護保険の事業所指定の手続き、必要な届出などについて具体的かつコンパクトにまとめたテキストブックである。介護保険事業で起業するNPOや市民に、まず読んで欲しい一冊。



淡海ネットワークセンター ブックレット No.24発行

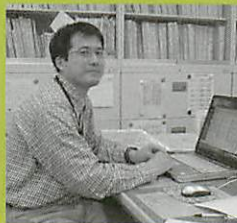
「まちづくり概論～まちづくりの経緯と新しい方向を模索する～」

法政大学現代福祉学部教授 岡崎昌之

定価：500円 (送料別)

※購入ご希望の方はセンターまで

●スタッフ紹介



4月から事務局スタッフとしてお世話になります林と申します。これまでに経験したことのない仕事に不安もありますが、いろいろな分野で活躍される皆さんとのつながりを持てることや、多彩な生き方をされている現場に立ち会えることなど、楽しみなこともたくさんありそうです。まずは、市民活動をされている方やNPOに関わっておられる皆さんの思いを教えてください。どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局 林 章)

編集後記

「おうみネット」を担当して5年。今号で最後の編集となります。取材を通じて多くの人や団体に出会い、いい刺激となりました。また、「おうみネット」編集に際し、編集ボランティアの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。(事務局 川勝)

センターでは7紙の新聞を役割分担して切り抜きをしています。今NPOという言葉は、活動、グループ、団体、人の情報など掲載されない日はない位です。一般的？になりました。それぞれがそれぞれの場所で望む社会を自分達で作っている、この作業を通してその想いを強くします。そしてその社会の変革に敏感でありたいと楽しみながら読んでます。(事務局 遠藤)

そよ風の取材では、ご自身の体験に基づいて地域福祉を語られる平井氏のお話に心動かされました。鳥取から滋賀につれてきた義母が死に際まで「鳥取に帰りたい」とこぼしていた話。老健施設の義父が月を負うことに見当識を失っていくのを目の当たりにした話。老いの現実についてのそうした体験が活動に生かされているのだと感じ入りました。(編集ボランティア 松田)

7月号のアンケート

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。アンケート締切：6月末日

Q1/あなたは琵琶湖の魚を食べたことがありますか？

a.食べる b.ときどき食べる c.食べない

Q2/琵琶湖で釣った外来魚は、どうしてますか？

a.リリースする b.捨てる c.持ってかえる d.釣りはしない e.その他

Q3/ニゴロブナなど昔から琵琶湖に住んでいる魚を守るために必要なものは？

a.水質浄化 b.釣り人のマナー c.養殖技術の開発 d.ヨシの保全 e.外来魚駆除 f.その他

Q4//琵琶湖の在来種(ニゴロブナなど)が減った原因は何だと思いますか？



淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net

■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)

火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

・各地域振興局、県内情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、滋賀県信用組合、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りします。

